

天地

ネットワークテーブル 526号

天地シニアネットワーク 2021・12・16

| | | | |
|-----------------------------------------|----------------------------------------------|--------|----|
| TENTI TODAY 投稿 (高齢者の出版) (樋口季一郎中将..を読んで) | | | 1 |
| 会員の広場 | | | 3 |
| 外国語 | 英会話の楽しみ(23) 表現パターン | 伊那 闊歩 | 3 |
| 外国語 | 中国人から見た日本人の言語表現理(29) 己を隠して自然的表現を好む心理(つづき) | 俞 彭 年 | 7 |
| 旅行記 | 「再び、そうだ京都へ行こう」(3)京都市の疎水沿いを歩く | 池端 千一郎 | 9 |
| 回 顧 | 海外の思い出—ポルトガル編 (2) | 森永 善彦 | 11 |
| 紹 介 | もう一人の杉原千畝 東条英機を説得し ユダヤ人を救った 陸軍将校(下) | 望田 武司 | 16 |
| 回 顧 | 国立慕情(9) 一橋・籠城事件 | 津田 孚人 | 19 |
| 事務局 | | | 22 |

TENTI TODAY

今年も残り2週間となりました。新しい年がどんな年になるのか、良くなる期待が4割ぐらいの気分です。期待の中身は不明、気分だけというところ、まずはコロナ禍が終息し、自由に外出できることを一番期待しています。

今年一年お付き合い有難うございました。来年もよろしくお願いします。

世代が移り変わり、戦争の愚さ、悲惨さ、残酷さなどを相対的に一番よく知る世代になりました。心配性のせい、最近の日本を見ると、目先にこだわり過ぎる、リーダー不足、将来へのビジョンが不鮮明など海外の動きに取り残されそうで不安一杯です。テレビドラマ「日本沈没」が、話題になっていましたが、全く有りえない話、と言う気にはなりません。

日本の歴史は、1931年(昭和6年)9月18日に起きた満州事変から大きく変わりました。国立慕情で籠城事件を取り上げていますが、事件が起きたのはまさしくこの頃、当時の学生の行動にもその時期の高揚した雰囲気の影響したようにも見えます。戦学生との比較は無理ですが、学生生活の真剣みは大きく違うようです。

以前、少しでしたがこの欄で紹介した「暁の宇品—陸軍船舶司令官たちのヒロシマ」

(堀川恵子著・講談社)が、第48回大佛次郎賞に決定、12月14日の朝日新聞朝刊に選考委員のコメントがありました。全委員一致のようです。田尻中将、佐伯中将のようなまともな将官を受け入れなかった日本の軍組織、結果は最悪でした。同じように少数意見を尊重しない現代日本社会、思い当たる節が多々あります。

(投稿)

最近高齢者が書き、出版される書物が増えてきている。

篠田桃紅「これでおしまい」・・・人は誰だって孤独。最後は一人。

細川誰熙「明日あるまじく候」、

森村誠一「老いる意味」

樋口恵子「老いの福袋」、

岸恵子「卵を割らなければオムレツは食べられない」

長谷川嘉哉「ボケ日和」、

佐藤愛子(九十八歳)「戦い止まず、日は暮れず」

中村メイコ「大事なものを捨てなさい」、

徳岡孝夫・土井荘平「百歳以前」

中村恒子、「うまいこと老いる生き方」、

戸田奈津子「枯れてこそ美しく」

田原総一郎・下重暁子「人生の締め切りを前に」、

大森あきこ「最後に、ありがとう、と言えたなら」

まだまだ私の気づいていないこの種書き物もあると思う。どのような動機でお書きになられたのか(、いつも新聞広告などで見かける度に)思っている。

現役時代に名声を博したが、今はそうでもないが故の寂しさか、あるいは出版社の販売増を狙ってのお薦めなのかいいろいろ考えられる。10%程度の著作権料を必要な方々とは思えない。今更「生き方」について人さまに教えていただくつもりは無いと思っている高齢者の一人だが・・・。

(大須賀四郎・84歳)

(投稿)

望田武司さんの『もう一人の杉原千畝 東条英機を説得し ユダヤ人を救った陸軍将校(上)』、関心を持って読みました。シベリア鉄道でナチスドイツの迫害から満州に逃れてきた多くのユダヤ人を救済した樋口季一郎陸軍中将の話はこれまで何度か聞いたことがあります。これだけ詳細に書かれた資料を読むのは初めてです。続きを楽しみにしています。

杉原千畝は、戦前・戦中・戦後の国際社会で日本人の存在感を知らしめた最高峰の人物であると思いますが、杉原千畝と同じように、ユダヤ人の救済に尽力された日本人が他にもいたことがわかりうれしくなりました。

樋口氏は、満鉄総裁であった松岡洋右にも支援要請を行ったとありますが、2年後、リトアニアの日本領事館に赴任した杉原千畝が大量のヴィザをユダヤ人に発給、かれらがウラジオストック経由日本に上陸した時も、当時、外務大臣であった松岡洋右が、ユダヤ人の滞在期間の延長で日本人協力者にアドバイスを与えています。極東裁判で戦犯となる松岡洋祐も満州で樋口に助言を与えた東条英機にも“人間の心”があったことがわかります。

佐川雄一（84歳）

会 員 の 広 場

英会話の楽しみ（23）

伊那 闊歩（84歳）

23. 表現パターン

1)

平安時代の貴族はだれでも、かけ算の九九の暗唱ができたそうである。貴族の教養のひとつとして重んじられていたのだという。現代の学校教育では、九九は小学校2年の算数の時間に学習することになっている。数のかけ算やわり算で九九の知識をフル活用すれば、たとえ桁数が途方もなく大きくとも筆算できて、答えを導き出すことができる。九九を暗唱していることがどれほど大切なことか、平安時代はいざ知らず、現代人なら身に沁みてよくわかっていることである。そのため、小学校の早い段階から九九をおぼえこませるわけだ。小学生なら記憶力が良いので言葉遊び(あるいは呪文)のようにしてすぐに憶えてしまう・・・かということ、そう簡単なことでもなさそうだ。Mark Twain (1835-1910) の [The Adventures of Huckleberry Finn] (1884) 第4章には次のような文章がある:

Well three or four months run along, and it was well into the winter, now. I had been to school most all the time and could spell, and read, and write just a little and could say the multiplication up to six times seven is thirty-five, and I don't reckon I could ever get any further than that if I was to live ever, I don't take no stock in mathematics, anyway. (さて、3 か月か 4 か月たって、もうすっかり冬になった。おらは、ほとんど休まずに学校へ行って、ちつとは読み書きもできるようになり、九九の表も、 $6 \times 7 = 35$ まで言えるようになった。でも、それから先は、死ぬまでやったっておぼえられそうもねえ。とにかく、算数ってのは性にあわねえや)(西田 実訳、岩波文庫)

ところで外国語を習得するためには、まずは多くの基本的なフレーズや頻繁に使われる言い回しのパターンなどを(呪文を唱えるようにして)憶えることが有効である。この作業は算数の九九を暗唱することに似ている。九九の場合、一桁の正の整数 2 個のかけ算の表を作り、 $1 \times 1 = 1$, $1 \times 7 = 7$, $7 \times 1 = 7$, など自明なものを除き、 $7 \times 5 = 35$, $5 \times 7 = 35$ は同じとして一方を除けば結局 36 パターンだけが残る。九九は 36 パターン覚えておけば必要十分なのである(*1)。

一方、英語の基本的な表現パターンはどれくらいあるのだろうか。ここで基本的とは、それが使われる頻度が高いものと定義すれば、ある程度絞れてくるのではあるまいか。それら頻度の高い表現パターンをまず重点的に覚えるのである。それもうろ覚えではいけない。しっかり覚えていないとあるパターンを使おうとした時にタメライが生じる。会話は咄嗟のやりとりなので、このタメライが会話の流れを阻害する。よどみなく言えた時にはそれが自信になる。

たとえば **All you have to do** のような表現パターンがあって、次のように使われる:

All you have to do now is study hard.

(君が今すべきことはただしっかり勉強することだ)

So, all I have to do is get an airplane ticket, right?

(ということは、私は飛行機のチケットを買うだけでいいんですね)

All you have to do is use your common sense.

(常識で考えればわかるでしょう)

これらの例文(英辞郎 on the WEB Pro から引用)を見てみると is の次には study, get, use など動詞の原型がくることに気がつく。to + 不定詞ではなくただの原型が使われ is の後は命令文の形になっている。理屈はいろいろあるようだが、これが英語の習慣だからこのようなことに注意しながら覚えるのだ。とはいえ例外はいくらでも見つかる、次の表現は to + 不定詞 の形になっている:

All you have to do is to be yourself. (ただ自然のままにしていればいい)

辞書や文法の本などを調べているうちに表現パターンが強く記憶にのこる。ものごとは、ある程度の労力と時間をかけなければ記憶に残らないのだ。

(*1)日本では約半世紀にわたり、かけ算の順序についての論争がつづいていることをご存知であろうか。ある応用問題の計算式を $4 \times 6 = 24$ と書けば正しく $6 \times 4 = 24$ と書けば不正解なのだという。詳細をここに記すわけにはいかないが、こんな議論がつづくために単純明快であるはずの数学をいたずらにシチメンドくさく難解なものにしている。筆者にはじつにバカバカしいこととしか思えない。

2)

「～に～させる」という意味を表す動詞を使役動詞といって make や let, have などが

その目的のために使われる。これらの単語を含む言い回しは、たとえば

Don't make me do this. (こんなこと私にやらせないで)

What makes you think so? (何でそう思うの。何が君をそう考えさせるの)

Please let me know when you are finished. (*2) (終わりしだい私にご連絡ください)

Let me get this. (ここは私のおごりだ、私にださせてください)(*3)

I'll have her call you back. (彼女に折り返し電話させますよ)

I really had her scared. (彼女を本当に怖い目に遭わせてしまった)

のように言い表されるがこれらは<使役動詞> + <目的語> + <動詞の原型> という形をとる。動詞 *get* も使役動詞とされるが、

I'll get him to do this work whether he likes it or not.

(否が応でもかれにこの仕事をやらせよう)

のように *get* + <目的語> + <to-不定詞> の形をとる。一方、*allow* や *want* という動詞も使役動詞ではないとされるが

Please allow me to introduce myself. (自己紹介させてください)

Do you want me to apologize? (謝ってもらいたいなの?)

Do you want me to check? (私にチェックしてほしいの?)

などを見ると *allow* や *want* は使役動詞としても良いではないか。ほかにも *help* は <to-不定詞> ではなく原型だけをとる場合が多く:

The search engine helped me find what I'm looking for.

(その検索エンジンは、探し物を見つけ出すのに役だった)

Her letter helped me make up my mind.

(彼女の手紙のお蔭で決心がついた)

などとして頻繁に会話に使われる。このほか *see*, *look at*, *observe*, *notice*, *hear*, *listen to*, *feel* などいわゆる知覚動詞といわれるものがある

I saw her cross the road and come through the gate.

(彼女が道路をわたり出入口を通して入ってくるのが見えた)

に見られるように <知覚動詞> + <目的語> + <動詞の原型> という形で使われるが、知覚動詞は日常生活に密着した動詞であるから <動詞の原型> だけでなく昔からいろいろな形で使われてきたようだ:

I saw her crossing the road.

となっていれば、彼女が道路をわたっているところをすべてではなくチラッと見たという表現になる。また次の文章は過去分詞をとったものである:

When I saw a man killed in front of me, I couldn't stop trembling.

(ひとが目の前で殺されたのを見た時、震えが止まらなかった)

文法での分類などにまどわされず、動詞それぞれの使い方、*to* がつか原型のまま

かあるいは現在分詞をとるか過去分詞だけしかとらないのかなどよく覚えておかなければならない。

(*2) you are finished は受け身形のように見えるが これは he is gone. などと同じく完了形 と考えられ、何かを終えたときにひろくこのような形で使われる。

(*3) Let us は「われわれに～させてほしい」Let's は「～しよう」という意味を表し

Let us know how it's going. (それがどうなっているか私たちに教えてください)

Let's go to the movies tonight. (今夜映画を見に行こう) のように使いわける。movies と複数形で使われることが多い。

3.)

こうして英語の表現パターンを覚えて、たまたまそれが使える機会があれば良いが、日常の会話はそんな単純なものではなく、せつかく覚えたパターンがそのまま使えない場面にくらでも出くわす。これでは表現パターンを覚えることが徒労と言わないまでも、労多く実り少ない作業に終わるのではないか、と思えるかもしれない。

じつはそうではないことがだんだんにわかってくる。筆者の経験によれば、ある程度覚えたパターンが多くなってくると、確実に英作文の実力があがるのだ。言いたいことが以前にくらべてすぐに出てくるようになったと思う。筆者は、表現パターンを織り込んで「英会話の網」をせっせと作り上げているような気がしている。

最初は粗かった網の目が、だんだん細かくなってきて、話し相手の言葉も捕えやすくなってきた。網は双方向にはたらく。捕えた相手の言葉に応じて、目の細かい網で相手に言葉を返すのだ。こうして会話が成り立つ。

街の書店をのぞいてみれば、英語の表現パターンをまとめた本がたくさん書棚に並べられている。筆者が気づいたものだけでも十指に余る。以下にその一部を書き出してみた。いずれもよく調査してデータを集め、表現パターンを覚えやすく編集されていると思われる。

マヤ・バーだマン、ジェームス・バーダマン 「英語の決定版」(朝日新聞出版)、
「英語のお手本、そのままマネしたい」敬語集」(朝日新聞出版)

伊藤 太、Gary Scott Fine 「使える英語だけ覚えなさい。基本の 78 パターンで英会話フレーズ 800」(丸善ジュンク堂書店限定版、西東社)

高橋基治、阿部一 「ビッグデータ英会話」(西東社)

大西泰斗 「それわ英語ぢやないだらふ」(幻冬舎)

大西泰斗、ポール・マクベイ 「英会話、話を組み立てるパワーフレーズ」(講義編、NHK 出版) 「英会話、話を組み立てるパワーフレーズ」(トレーニング編、NHK 出版)

塚本 亮 「80 パターンで英語が止まらない」(高橋書店)

日向 清人 「英語はもっとイディオムで話そう」(語研)

中山 裕木子 「シンプルな英語」(講談社現代新書)

藤田秀時「思ったことが英語で自然に言える！英語の日常フレーズ 6000」（株式会社 主婦の友）

巽 一郎「とっておきの英会話表現辞典」（ナツメ社）

中国人から見た日本人の言語表現心理(29)

俞彭年(84歳)

己を隠して自然的表現を好む心理 (前・525号掲載の同題のつづき)

己の動作・行為を表さず、己を隠して他人事みたいに自然現象として叙述することは日本人の言語表現心理だが、中国人はどうだろう。食事の用意をし終わって「お食事の用意ができました」という場合、中国人はこう言うだろう。「(我把)饭准备好了」となり、動作の主体である己「我」が省略された能動的な表現であり、「准备」は日本語の他動詞にあたる。

役所からの知らせで「来年4月からツベルクリン・BCG 接種が変わります。」の場合、中国語では普通こうなる。「从明年四月起卡介苗种要改了」となり、「要改」の行為の主体である「役所」は自明であるため出てこず、また出す必要もない。「改」は日本語の他動詞にあたる。

「おいしいお茶が手に入りました」の場合、中国語ではこうだろう。「我弄到了好茶」となり、行為の主体である己「我」は隠れず、完全の能動表現であり、「弄」は日本語の他動詞にあたる。

「財布が見つかりました」の場合、中国語では普通こう「找到钱包了」となり動作の主体である己「我」が省略された能動的表現であり、「找」は日本語の他動詞にあたる。

以上をまとめると、動作・行為の主体である己は自明で省略される場合と省略されない場合とがあり、自動詞表現はいずれも能動的(他動詞的)表現となる。

他動詞を使うと動作・行為の主体となる己の意図が表に出てしまう。したがって己の意図を押し出さずに慎重深く話したり、控えめに話したりあたり障りなく話したりする際には、他動詞を使わず、自然のなりゆきとして表すために自動詞を使うことになる。『明鏡国語辞典』はこう指摘している。「<～が終わる>は自然のなりゆきとして終了する、<～を終える>は意図的に終了する意。<これで挨拶を終えます>というと、話しての意図が前面に押し出されすぎるため、一般には<～を終わります>という穏やかな言い方になる。「～を終わる」は他動詞と扱う。つまり「終わる」自他動詞となる。

「他動詞+れる(られる)」の形で自動詞化して動作・行為の主体を隠して第三者的に物事を述べる言い方もこの類に入る。この言い方は動作・行為の主体の意図が前

面にでないため、控えめで穏やかな印象を聞く人に与える。

例えば、「本学では去年の12月に外務省の〈日中知的交流事業〉として〈岐路に立つ日中関係の現状を考えよう！〉というシンポジウムが行われました」と言った場合、シンポジウムの主催者を示しておらず、ただこういうことがあったという情報を伝えているだけであり、主催者を突出しない配慮が伺える。中国語の場合はどうなるだろうか。やはり能動的な表現「**我校在去年12月举办了外务省的“日中智慧交流事业”研讨会“让我们考虑处于十字路口上的日中关系现况！”**」となり、主催者がはっきりと前面に出てくる。

もう一つの例を見てみよう。「この政策は今後も引き続き実施されていきます」は中国語に訳すと「**(我们)今后也继续实行这个政策**」となり、実施する主体は話し手が話し手が代表する機構かになる。動作・行為の主体が欠けると、中国語としては落ち着かないのだ。これは中国人には日本人のこのような言語表現心理がないからだろう。したがって翻訳の際は表現心理の違いに注意しなければならない。もっとも注意と言っても、中国人と日本人の言語生活に慣れなければ注意のしようがないだろう。

中国語と違い日本語は便利だ。自動詞と他動詞がはっきりと分けられていて、辞書を引けば自動詞なのか他動詞なのかがすぐに分かる。そして多くの動詞は自動詞と他動詞とがペアになっている。ペアでない場合は、「他動詞+れる(られる)の形で自動詞がつかれる。しかし、最近では自動詞があっても、「他動詞+れる(られる)」の形を使うのが目に付いて考えさせられる。

例えば、「いろいろなお雛様がずらりと並べられています」と耳にしたとき、なぜ「いろいろなお雛様がずらりと並んでいます」と言わないのか、と考えさせられた。

日本には特に意図や考えを持たなく自然の状態を示す語彙が中国語より多いようだ。「何気ない」「何心ない」「何となく」「何となしに」「何とはなしに」「何気なく」などがある。いずれも中国語訳が難しい。

さらに「さりげない調子」「さりげなくたずねる」の「さりげない」「さりげなく」と「それとなく注意する」の「それとなく」がある。「さりげない」は「心に何か思うところがあるにもかかわらず、それを表立てないように見せる様子」、「さりげなく」は「そのことに関心や意図するところがあっても、それを見せないようにして働きかける様子」、「それとなく」は「相手に自分の考えをさりげなく伝えようとする様子」という意味だ。(『類語大辞典』)。

「さりげない」は『実用日漢詞典』で「**若无事的, 毫不在意, 漫不经心的**」の訳語があり、『小学館日中辞典』では「**若无事, 毫不在意**」の訳語がついている。『岩波日中辞典』では訳語なく、ただ例文とその訳文だけになっている。適当な決まった訳語がないからだろう。「それとなく」は『実用日漢詞典』では、「**拐弯抹角地, 不直截了当地, 委婉**」

の訳語、『小学館日中辞典』では「暗中、不露痕迹地、婉转地、委婉」の訳語である。『岩波日中辞典』ではやはり訳語がなく、ただ例文とその訳文だけである。これも日本人は己の考えや意図などを隠して自然的に見せようとする言語表現心理が強く働いて言葉に工夫を重ねる結果であろう。中国人はこの面では日本人ほどきめ細かくはないようだ。

「再び、そうだ、京都に行こう！」—その3— 池端千一郎 (74歳)

京都市の疎水沿いを歩く

京都の川や水路を語る上で、琵琶湖の淡水を京都市内の上水道、工業用水、水力発電などのために京都市まで導水した琵琶湖疎水は外せない。今年 10 月上旬に行った京都旅行では、3 日目に疎水周辺を散策したので、以下に水路の概要や散策の印象を紹介させていただく。

琵琶湖疎水は、滋賀県大津市観音寺の琵琶湖取水口から鴨川丸太町橋近くで鴨川に突き当たり、鴨川の直前で左折して京都市伏見区堀詰町に到る全長約 20km に及ぶ「第1疎水」、やはり琵琶湖から取水して、第1疎水の北側を全線トンネルで並行し、京都市蹴上の船溜りで第1疎水と合流する全長約 7.4km の「第2疎水」、そして蹴上で第1疎水から分岐して北白川に至る全長約 3.3km の「疎水分線」などからなる。

これらのうち第1疎水と疎水分線の工事は明治 18 年に着工、5 年後の明治 23 年に完成した。第2疎水は明治 41 年に着工し同 45 年に完成した。また疎水の水流を利用した水力発電所の設置は当初の計画にはなかったが、設計監督にあたった田邊朔郎らが米国視察を踏まえて日本初の営業用水力発電所となる蹴上発電所の建設を提案して採用された。

蹴上発電所は明治 24 年に運転が開始され、その電力で明治 28 年には京都・伏見間で日本初となる路面電車(京電)の運転が始まった。また鴨川にほど近い夷川(エビスガワ)船溜りにも大正 3 年に夷川発電所が建設され、京都市内に電力が供給された。

ところで京都府知事は何故京都市への琵琶湖からの疎水設置に踏み切ったのだろうか。19 世紀後半の京都市は、維新に向けての幕末の政変やそれに伴う市内各所で
の戦闘の勃発で市街地の多くが焼失した。さらに大政奉還による明治維新と東京への
奠都に伴い、人口は減少し、産業も衰退し始めた。そこで第3代京都府知事の北垣
国道は産業振興による京都市の経済発展を大目的として、灌漑、上水道、水運、発
電等を直接目的とした琵琶湖疎水の開発工事を計画・実行したのである。

北垣京都府知事は、この事業の設計並びに施工の総責任者として、東京帝国大学工部大学校を卒業後間もない田邊朔郎を任じた。このとき田辺の年齢はなんと若干 23 歳。北垣知事はこの大学出たての若者に、現在の価格でほぼ一兆円近い、当時の国の土木予算総額をも上回る巨大工事の設計施工に関する権限と責任を任せたのである。

また明治 28 年の「平安奠都千百年記念事業」として第 1 疎水夷川発電所の北部に位置する岡崎公園地区に建設された平安神宮の設計責任者も、田辺と同じく東京帝国大学工部大学校卒業後間もない 25 歳の伊東忠太であった。

いずれにしても現在の日本では到底考えられないような若者の抜擢人事であった。そして彼らはこれらの大仕事を立派にやり遂げた。大任を果たした若い技術者の能力も凄いが、大学出たての若い技術者を巨大事業の設計と施工の責任者にしてしまった北垣府知事の度量というか器量というか思い切りの良さにも感心する。

維新聞もない我が国には欧米の最新の土木工学や施工技術を学んだ技術者が殆どいなかったという事情があったにせよ、維新という一種の革命下にあった当時の日本社会ではそういう思い切った抜擢人事を許す乃至は受け入れる空気があったのだろう。

西郷隆盛、大久保利通、坂本龍馬、木戸孝允、高杉晋作、渋沢栄一など、幕末から維新にかけて活躍した西国雄藩の志士たちの多くが活躍したのは 20 代後半から 30 代半ばであったことから、新しい時代の社会は若者が造るという風潮や認識があったのに相違ない。今、22 世紀に向かって我が国は少子高齢化が進み、人口の減少と経済社会の衰退が強く懸念されるだけに、今一度、国づくりや産業振興における若い世代への思い切った権限の委譲が是非とも必要のように思うのは筆者だけではないと思う。

さて琵琶湖疎水はその機能や諸元や建設の経緯等を文字や数字で書くと、無機的で潤いや情緒に乏しい産業基盤関連施設という印象になってしまう。けれども京都市に行くと、実際に鴨川の丸太町橋から川端通りを 200m 程下って左折し、名前も素敵な冷泉通りに沿って疎水を上流となる東方向に向けて歩いてみると、濁りの少ない清らかな水がゆったりと流れていて、その水路沿いには緩やかに蛇行する遊歩道などが整備され植栽もなされていて何かゆったりとした気持ちになる。

疎水にそって冷泉通りを直進し、夷川発電所を過ぎてから水路に沿って右折しすぐに左折して仁王門通りを少し歩くと、水路の向こう側には複数の美術館や平安神宮や市立動物園などのある岡崎公園地区が広がり、一方水路の手前には能芸の観世会館等があり、一帯は文化的な雰囲気漂う静謐な街環境となる。

水路のどん詰まりの更に向こうには東山の山々の緑濃い森が見えて、観光拠点の

雑踏や混雑を避けてのんびりと散策を楽しむには絶好のロケーションである。

また第 1 疎水の蹴上船溜りから南禅寺を経て、銀閣寺方面へと続く疎水分線に沿った散歩道は、西田幾太郎を初めとする京都の人文学者達が散歩しながら思索をした通称「哲学の道」である。この道は筆者が国内でもっとも好きな散歩道のひとつ。桜並木の歩道の脇を清らかな川や水路があることは、魅力的な散歩道の条件の一つだと思う。かつて疎水を計画した北垣知事もまさか疎水が京都の魅力的な観光資源になるとは思ってもいなかったろう

冷泉通り(通りの名が雅だ) ゆったりと流れる疎水



夷川発電所の建物



夷川の船溜り



平安神宮の世界最大の鳥居



観世会館



海外の思い出

2021年10月8日

森永善彦(74歳)

ポルトガル編 第2弾

先回オポルトの空港税関のエピソードを書いた時、私の桐朋時代(中学、高校)の友達^{うてな} 君から今のポルトガルは日本人に余り知られていないので、もう少しポルトガルについて書いて見たらと勧められました。私も仕事以外ではそれ程ポルトガルに行った訳では無いので、何処まで書けるか自信は有りませんが、オポルト以外にもリスボンに4-5回、冬場の避寒ゴルフでポルトガル南部の^{ファロ}Farolに4-5回行ったので、そ

こら辺を踏まえもう少しポルトガルについて書いてみます。

ポルトガルは今日隣国のスペインに比べると面積は少なく、人口も国土の大きさに合わせ 1/4 位と差を付けられています。少しポルトガルの過去についてスペインと共にお話します。

スペインは西ローマ帝国が瓦解した後、一時西ゴート王国として(西暦5世紀から8世紀初めまで)イベリア半島の大部分を支配した時代がありました。その後アラブ人がイスラム教の布教を広げ、北アフリカから地中海を渡って押し寄せ来てイベリア半島を領有しました。レコンキスタ(国土回復運動)で15世紀末に完全にアラブ勢力をイベリア半島から駆逐するまでは、スペインはイベリア半島の北西に押しやられていた時代もありました。スペインが完全に領土回復するまでは、ポルトガルはスペインと対等の立場で国を堅持し、外交関係を保っていました。

スペインがレコンキスタで領土を広げ、国力を大きくして行く段階でポルトガルは今の国土の王国として国を確立し、華やかな海外進出で大いに活躍しました。



しかし16世紀後半から衰退し始め、広大なブラジルを領土としてある程度の国力は維持しつつも1825年のブラジルの独立と共に世界の表舞台からは退きました。

皆様良くご存じの通り、日本とポルトガルは戦国時代に初めて交流を持ちました。その当時、ポルトガル商船は世界の隅々まで活動を上げていました。

1543年アジアの交易に携わっていたポルトガル商船が種子島に嵐で漂着し、島の人々に救助されました。丁度日本は応仁の乱の最中で戦国時代の真只中でした。

その時ポルトガル船から鉄砲が初めて日本にもたらされ、それまでの弓、槍、刀中心の戦いに大きな変化を起こしました。

徳川家3代将軍家光の時代にオランダ以外の西洋諸国に対し鎖国を開始するまで、多くのポルトガル人が日本を訪れ、日本に無かった新しい事物を持ち込んだのです。

日本語にも多くのポルトガル語が取り入れられました。カステラ、カルタ、キャラメル、カッパ(合羽)、テンプラ、シャボン、タバコ、パン、ボタン等々沢山あります。一つ一つ由来を言っていると長くなるので、これ位にしておきますが、現在の余り結びつきの強くない日葡関係を考えると、意外な位ポルトガルの文化が日本に根付いている事に感慨を新たにさせられます。

仕事では主にオポルトに行く事が多かったのですが、首都リスボンにも何回か行きました。

ポルトガルについて語ると言っても、限られた場所にしか行っていないので、色々と調べた情報も加えてポルトガルをご紹介します。



ポルトガルの国土面積は 91,985 平方 km で南北に縦長く日本の北海道より少し大きい位の広さです。

総人口は 1,030 万人、首都リスボンの人口は 50 万人でポルトガル最大の都市です。

因みにこの間お話ししたポルトの人口は 24 万人でポルトガル第 2 の都市です。

地理的にはヨーロッパ大陸で一番西に位置する国がポルトガルで、リスボン郊外にあるロカ岬がヨーロッパ大陸の最西端という事になっています。

汎ヨーロッパのトヨタの会議がリスボンで開催され、その時ロカ岬を訪れました。

若干日本の襟裳岬に雰囲気似ている気が

しました。観光客が多く訪れていました。

(ヨーロッパ全体で言うとアイルランドの西側とポルトガルの西側は大体同じ経度です。文中にロカ岬の画像を入れ忘れたので、別添します。)

さてリスボンの紹介をすると、他のヨーロッパの大都会であるロンドン、パリ、マドリッド等にと比べると規模も小さく、田舎臭い感じは免れませんが、ベレンの塔と記念碑、ジェロニモス修道院、コメルシオ広場等人気スポットが市内に点在しています。



(ベルンの塔)



(エンリケ航海王子記念碑)

そしてオポルトも同じですが、美味しい海鮮料理が大衆的なレストランで手頃な料金で楽しめます。秋には町中の街角で七輪の様な物でイワシを焼いて手軽に食べられます。(一と話に聞きました)



(ポルトガルの海鮮料理)



(イワシ料理)



また夕食の後はポルトガルの郷愁を帯びた民謡ファドをレストランやファドレストランで楽しめます。アマリア・ロドリゲス(1920ー1999)はファドの女王として国民の人気を集めていました。(日本の美空ひばりに匹敵しますかね?!)

ヨーロッパの大都市のロンドン、パリ、ローマ、マドリッド等は観光客も多く、街中は人がせかせかと動き回るイメージが有りますが、リスボン是他の大都市に比べると落ち着いた感じでゆっくり色々な物が楽しめます。

(アマリア・ロドリゲス)

さて私がプラベートで何回も訪れた Faro についてお話しします。ポルトガルの最南端で地中海に面したリゾート地です。特に冬の避寒地として知られています。

私もワルシャワの真冬(日中の平均気温はマイナス3度位)の時期、暖かさを求めて、半袖でゴルフが出来るという情報に釣られ、はるばる Faro まで行きました。

ロンドンからも2, 3回合計 5 回程ゴルフ旅行をしました。

ロンドンからゴルフ好きが参加してのゴルフ三昧でした。



Faro は大西洋に面していて、1 月、2 月でも確かに日中は暖かく、本当に半袖でゴルフが楽しめました。大体4泊5日位の日程で、1回の Faro 滞在中で3コースでプレーしました。



(何回もプレーした Vale de Lobo です)

夜は海岸に近いレストランを探し、レンタカーでレストランまで行って、海鮮料理とポルトガルのヴィニョヴェルデ(グリーンワイン、生ワイン、アルコール度低め)をお値打ち料金で楽しみました。

(Faro の海岸沿いのレストラン)



(大いに飲んだヴィニョヴェルデです)

但しポルトガルも 1999 年にユーロランドに加盟し(それまではエスクードと言う通貨でした)、ユーロが唯一の通貨となり、それに伴い便乗値上げがあり、ゴルフのプレー代、ホテル宿泊費や飲食代が高騰し、Faro でのお値打ちゴルフの魅力は低減しました。しかし、真冬に暖かい所でゴルフが出来る誘惑には勝てずに、「何でも高くなったなー！」とぼやきつつ、結局 2001 年に転勤したロンドンからも冬に Faro に通いました。なお Faro にはゴルフ以外にも観光の名所は沢山有った様ですが、ゴルフしか頭にならない我々ゴル狂(キチ)は全く観光名所には関心を寄せず、ゴルフだけをして帰宅しました。従いまして Faro の観光名所の説明は出来ません。ご容赦下さい。

ご興味のある方はネットで調べて見て下さい。

ポルトガルの追加情報を第2弾としてお伝えして、私の”海外の思い出“を終了致します。 以上

もう一人の杉原千畝 東条英機を説得し ユダヤ人を救った陸軍将校(下)

望田 武司(札幌市在住、77 歳)

第二次世界大戦の米英ソの連合軍首脳は、ナチス・ドイツ崩壊直前の 1945 年 2 月、クリミアのヤルタで、戦後処理について話しあった。ここでアメリカ大統領のルーズベルトは、ソ連のスターリン書記長に対し、ドイツ降伏後 2~3 か月内に、ソ連が日ソ中立条約を破棄して対日参戦することを求め、ソ連は千島列島の割譲と、日露戦争でソ連が失った南樺太を取り戻すことで合意した。(ヤルタ協定)

ソ連はその後、千島・樺太だけでなく、北海道の留萌・釧路を結ぶ北半分も占領することを求めたのに対し、ヤルタ会談直後に死亡したルーズベルトに代わってアメリカの大統領になったトルーマンは、そこまでするのもいかなものかと拒否する。

日ソ中立条約の破棄まで求めて、日本への参戦を望んだアメリカが、ソ連の要求を拒

否したのは、会談後に原子爆弾が完成したためとも言われている。原爆を 2~3 個投下すれば、もう日本は降伏だ、ソ連の手を借りることもないと判断したものと思われる。アメリカの冷たさを知ったスターリンは、実効支配だけはしなければと、ヨーロッパの戦いで疲弊した大軍を急遽きびすを返して東に急行させた。



ソ連は北海道の半分占領に向けて、8 月 9 日対日参戦を布告し、天皇の玉音放送の後の 8 月 18 日、千島列島最北端、カムチャッカ半島に最も近い占守島(シュムシュ島)から上陸、これに対し、北方の指揮権を持つ樋口司令官は占守島を守らなければ、そのままずるずる北海道に上陸されるかもしれないと判断し、既に大本営から出ていた停戦命令を無視して、占守島部隊に対し「断固反撃せよ」との指令をだし激戦となる。(占守島の戦い 8.18~23)

戦況は日本軍優勢であったが、(死傷者日本軍 600 ソ連軍 3000、ソ連側の発表で日本軍 1000、ソ連軍 1567)その後の軍令により日本軍は停戦・降伏する。ソ連軍はこの後、現在北方領土と言われる千島南端まで南下するが、占守島で手間取ったスターリンは、北海道上陸を断念することをアメリカのトルーマンに伝える。

樋口中将はスターリンの野望を阻止した司令官との評価を受ける。

占守島で甚大な損害を受けたソ連のスターリンは戦後、札幌にいた樋口中将を戦犯として、身柄を拘束するよう GHQ(連合軍最高司令官総司令部)に要求する。この動きをいち早く察知した世界ユダヤ人会議は、世界中のユダヤ人コミュニティを動かして欧米のユダヤ人金融家によるロビー活動を始めるなど、樋口救済運動が世界的な規模で始まった。

この結果、日本の占領統治を主導していた GHQ のダグラス・マッカーサーはソ連の要求を拒否し樋口の身柄を保護した。また、アメリカはアメリカで日米決戦で日本軍が玉砕したアリューシャン列島のアッツ島や撤退したキスカ島などの戦闘で、樋口率いる第五方面軍がアメリカ軍捕虜に対しどのような処遇をしたか、当時札幌で一番のホテル、グランドホテルを接収して現地事務所していた GHQ は、樋口を直接取調べていた。

この取調べにあたったアメリカのキャッスル中佐は、ある時グランドホテルのレストランに樋口を招き、次のように言った。

「閣下、いろいろ失礼な質問をしたことを、この際深くお詫び申し上げます。私の方で綿密に調査した結果、閣下傘下の部隊で捕虜虐待や致死事件などは一件もないことがわかりました。これは我々にとって驚くべきことです。」

キャッスル中佐はこのように述べたあと、続けて「あなたは偉大なる人道主義者です」と樋口を称えたという。

エルサレムにはユダヤ民族が大切にする聖典として「ゴールデンプック」と「シルバールブック」という 2 冊の本がある。これはユダヤ人とイスラエル建国に貢献した人々を、永久に顕彰するために作られたもので、前者はユダヤ民族出身の世界的人物名を記載し、後者はユダヤ民族のために貢献した外国人を登録したものとされ、いずれもユダヤ人にとって神聖な経典並みに扱われている。

この経典に“ゼネラル樋口”の名前が記されているが、シルバールではなく「ゴールデンプック」に記されているという。ユダヤ人が樋口の功績に、とくに謝意を表すために取られた措置と思われる。

ユダヤ人を救済した人物として、日本にはもう一人の杉原千畝ともいえる人がいた。杉原千畝は本省の訓令に反してビザを発行したのに対し、樋口季一郎は東条英機を説得してユダヤ人救済の道を作った。ところが今日、国内で杉原千畝がそれなりに知られ、評価されているのに対し、樋口季一郎は知る人ぞ知る程度で、その知名度は雲泥の差となっている。

それは樋口が軍人であったためと思われる。とくに樋口はその経歴が示すように、組織を動かして戦う作戦活動とは真逆の、諜報活動や特殊工作、いつてみればスパイを

統括する大ボスであって、人道主義とは相いれないと思われる仕事をしてきた人物だけに敬遠されてきたこと、さらに軍そのものが解体して語り継ぐものがいなかったためと思われる。樋口は 戦後一時神奈川県大磯に住むが、24 歳まで祖父と同居していた孫の明治学院大学名誉教授は、祖父は「人として当たり前のことをやっただけだ」と言うのみで、戦時中のことはほとんど語ることがなかったという。また同じ孫で嫁に行き札幌に住み、現在市会議員をしている女史は「祖父はいつも静かにロシア語の本を読んでいました」と回想している。



(写真の右建物宿泊所、左の蔵が記念館)

この農家には、支笏湖を作った 4 万年前の支笏火山の大噴火で、火山灰が堆積・凝縮した石「札幌軟石」でできた立派な石蔵があり、これをどう利用しようかと思っていた時に樋口季一郎を知ったという。

話を聞くと樋口は難民救済という立派なことをやった人であり、また北海道占拠というスターリンの野望を打ち砕いた人で、そういう意味では北海道とは縁があると思って、記念館を作ったという。この記念館を作るにあたり、陸上自衛隊真駒内駐屯地も全面的に協力し、駐屯地で保存していた樋口司令官が使っていた机やパネルなどが展示されている。

ところで、樋口季一郎記念館ができた石狩市とはどのようなご縁があったのだろうと思って調べてみると全く縁のないことがわかった。館長によると、館長自身も記念館を作るまで樋口季一郎のことは知らなかったという。この館長は実は古い民家を再生・保存する文化活動を行っている「古民家再生協会」の北海道ブロックの理事長で、石狩で空き家となった農家を引き取り、リフォームして宿泊施設とした。

樋口季一郎の功績をきちんと評価しようとするシンポジウムが今夏東京で開かれた。

そして終戦記念日直前の 8 月 12 日「樋口季一郎中将の銅像を建てよう」という寄付を募る広告が、北海道新聞の一面の 3 分の 1 を使って掲載された。全国紙にも掲載されたかどうか不明だが、あまりにも大きな広告にびっくりした。こういう広告はどこかの宗教団体の広告しか見たことがない。

銅像は樋口季一郎の生まれ故郷の淡路島と、北海道のどこか、北千島での戦闘で、北海道を朝鮮半島のように分割統治されるのを阻止したということで、千島列島が臨める根室辺りに建てる予定だという。

戦後 76 年たって、陸軍中将樋口季一郎を顕彰する動きが始まった。

国立慕情 (9)

津田孚人 (84歳)

昭和 6 年 (1931 年) 10 月 4 日、警備をかいぐって運よく若槻首相に面会できた学生交渉委員 5 人は、決議文を渡し、「伝統ある東京商大を、つぶさないで欲しい」との趣旨を伝えた。首相は「商科大学の件は、新聞で承知しているし、学生諸君が騒いでいることも新聞で読んだ」「今、日本は重大な時局に遭遇している。その対策として財政緊縮を行わねばならない。諸君を待たせたのも来客があつて時局について色々相談していたからだ。諸君の言い分も分かったのでこの問題につき慎重に善処するよう、関係大臣に指示したい。政府を信用して、徒に軽挙妄動に走らぬよう慎んで貰いたい」と応じた。会見が始まった頃、私邸周辺では学生デモ集団が多数の騎馬警官と対峙、会見が終わると隊伍を組んで一ツ橋へ引き返し午後 6 時、第三回学生大会を開催した。そこで首相との会見の報告が行われた。

この日、警官の学生デモ隊に対する弾圧が強まっており、永田町の首相官邸付近での衝突と、私邸から一ツ橋旧校舎までのデモ行進で、合わせて数十人の検束者が出た。

当日は、京浜在住の**専門部卒業生**が、午後二時半に如水会館に集まり、学生委員、教授側委員も加わり、約 500 人で卒業生大会を開催した。情勢分析と経過報告の後、決議文と声明書を発表し、反対運動への合流と熱烈支援を決定した。さらに卒業生有志は第三回学生大会に出席、激励演説を行った。

さらに、午後 7 時から三科連合教授会が開かれ、佐野学長から文相との会見報告がなされ、「重大なる決意をもって目的貫徹を目指す」の決議をし、「五日より三日間、臨時休講する」と決定した。

10 月 5 日 (籠城第一日) 午前 8 時、交渉委員は文相官邸を訪問、統制部は逆効果を懸念して学生デモ隊を送らなかつた。この日は、予科、専門部を含めた 10 名の交渉委員が出席して田中隆三文部大臣に会見したが、文相は、開口一番大声

をあげ、

「君たちは学生の分際でありながら何だ。学生の本文を知らんのか」と怒鳴りつけた。さらに「文部省との交渉は、大学当局がすべきで、学生が直接大臣に会いに来るとは、不謹慎極まりない」と学生を非難した」。

学生も「文部省と教授会に委せて問題が解決するなら、騒いだりしない。教授会に委せて置けないから、こうして来ている」と食い下がった。

文相は、内心では弱気で、最後は態度を変え、「そう怒るな、ともかく善処するから、文部省と教授会に委せて置き給へ」と宥めにかかった。学生たちは、首相や蔵相にくらべ余りにお粗末で情けないと感じて帰って来た。

午前10時、第四回学生大会を開催、文相との会見内容を報告、次いで渋沢栄一子爵、民政党を訪ね陳情したグループからの報告があった。樂觀を許さぬ雲行きに、ますます一致団結すべしという思いが強まった。

午後3時、第五回学生大会が開かれ、これから如何に行動すべきか討議された。結論は出ず、空回り、統制部は「このような事態を突破するには、全学が一致団結して強力な学生運動を展開する他に道はない。我々学生は予科、専門部廃止の暴案を粉碎し、本日より全員ここ（神田一ツ橋のバラック校舎）に籠城する」と提案、割れんばかりの拍手と、怒号の中、提案は可決された。

学校騒動としては空前の戦術である「全学生の徹夜籠城」が決行されることになった。この時刻、かなりの人数の警官隊が校内に入り雲行を窺っていた。学生との衝突を心配した若手教授や先輩は、警官に構外退出を掛け合い、警官隊はしぶしぶ退去した。この交渉に当たったのは、三日に結成された「如水会青年同志会」の茂木啓三郎、松本正雄の両先輩のほか、村松恒一郎、高橋泰三、常盤敏太、米谷隆三などの若手教授たちであった。

籠城決起ときまった第五回学生大会直後、上田貞次郎教授、その他の教授は、学生幹部と如水会館で緊急会合を持ち、学生代表2名を関西へ派遣することにした。関西如水会の長老連が、政府案に賛意を示しているらしいという情報があり、事情を説明して納得してもらう必要があった。

籠城が決まると、早速、購買部、配給部、連絡部が新設され準備にとりかかった。まず、当夜の食料と寝具。会計部は、資金調達が必要と先輩に相談すると「金は幾らかかってもよい。心配するな」の返事を得た。そこで夕食、1500人分を短時間で間に合わせるのは「駅弁」と考えたが駅弁屋は規模が小さいので集めるのが難しいとわかり、「金の心配をするな」と言われているので、思い切って歌舞伎座前の弁当屋「弁松」に頼んでみることにした。弁松からは「1500、

全部引き受ける」という返事があり、翌日の新聞には「流石、商大の籠城、資金豊富」「弁当は弁松」と書かれた。布団は、トラック5台で市内の貸布団屋を片っ端から回り、2500枚調達した。

翌日の朝食は、夜中に仕出し屋に無理に頼み込み、梅干しと沢庵を入れた折詰1500個を手配、そのほかに、筵、薬缶、茶碗、ローソク、木炭、紙、など合計で400円の籠城必需品を買い込んだ。

5日夜の籠城に参加した学生は、本科395人、予科564人、専門部・教員養成所580人で合計すると約1600人で当初より増えた。統制部は、籠城学生をクラス毎に、図書館、バラック建ての2ホール、研究室、教室2棟、食堂、消費組合室、門衛休憩所、小使部屋、ボイラー室、など総ての建物に割り当てた。

学生たちが、それぞれの部屋に落ち着くと、暗い部屋の窓から薄暗いローソクの光がもれ始め、室内では、筵をかぶって寝ているルンペンさながらの一団、夕刊各紙を壁に張り付けて激論をかわすグループ、ローソクを囲んで密議を凝らす一群、闇の中で「一橋会歌」を合唱するクラス、入浴ができないので水道の水で冷水摩擦をする者、明朝の炊き出しに備え大釜据え付けに汗する者たち、色々に動いていた。

外では、ポート部員を主体とする70人で組織された籠城防衛隊による自警団が、帽子に白布を巻き、それぞれ「自警団」と大書した新調の提灯を持って、正門、裏門、校内の要所々に立ち、外部からの侵入に備えていた。

校内に踏みとどまって警戒にあたっていた警官隊は、学生自警団の堂々たる組織的な宿営ぶりを見て午後6時には、数名を残し、校外へ退去した。

こうして一ツ橋旧校舎跡は、軍隊に占領された敷地8400坪の部落、あるいは出征軍の宿营地でもあるかのような光景を呈し籠城の第一夜は更けていった。

学生の籠城が決定すると、金子鷹之助、米谷隆三らの少壮教授26名も「我々も籠城だ。学生が籠城を解くまで我々教授も一人残らず旧校舎で頑張る」と申し合わせ、如水会館に籠城した。

一方、如水会側では5日午後4時に如水会館で役員会を開催、60人出席した。藤村義苗理事長が今回の事件の経緯を報告し、「予科、専門部廃止については一切妥協を許さず、絶対反対」と言明、声明書をつくり評議員会に諮ることにした。

午後5時半より、99人の評議員が出席して臨時評議員会が開催された。正田貞一郎評議員会議長（明治24年高商卒）の指名で藤村理事長、つづいて佐野善作学長、相京光雄学生代表らから経過報告、事情説明がなされ、そして臨時役員会で承認された「声明書案」が満場一致で採択され、さらに「予科、専門部廃止案撤回要求」の決議がなされ、交渉委員7人を選出して、猛運動を展開すること

が決まった。

如水会声明書は、直ちに内外各地の如水会員、支部宛に送られ、船会社、銀行、商社でも電信で海外に通報した。これにこたえて海外の如水会支部から熱烈な激励電報が続々寄せられ、さらに、神戸商業大学教授団、横浜高等商業学校教授団からも応援と、激励の電報が送られてきた。

(つづく)

事 務 局

天地シニアネットワーク事務局（津田 孚人）

〒116-0001 荒川区町屋3-2-1

ライオンズプラザ町屋703

メールアドレス：tentisenior06@gmail.com

電 話・FAX 03-3819-7651